

「ヒヤシンスの芽生え (2)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーション研究所 研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

ヒヤシンスは球根自体が大きくて、最も水栽培に適した植物と言える。小学校でも土で栽培することは稀で、大抵は教室内で水栽培をする。いずれも「秋植え」だが、水栽培の場合は室内で気温が高いこともあり、成長が速く、早いものは1月には花を咲かせる。



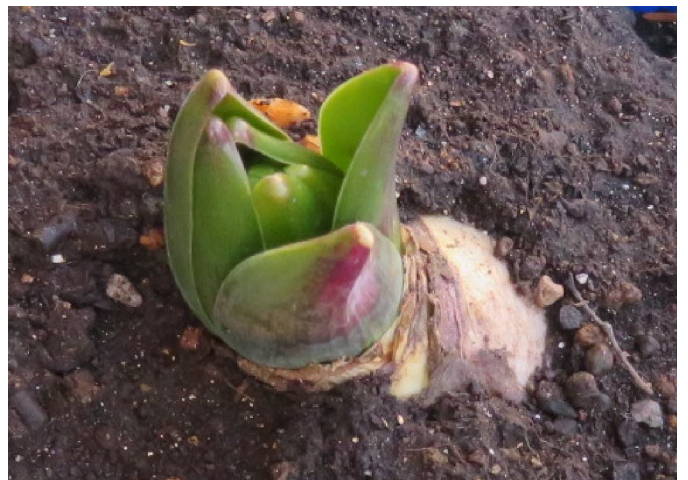
しかし土栽培の場合、屋外ということもあり、成長が非常に遅い。もう植えてから2か月以上たつのに、やっと芽が出たばかりという球根もある。少し深く植えてしまった鉢は、まったく芽が出ていない。最初にこれを見つけた1年生は、これがヒヤシンスの芽だとは気づかず、「変な緑のツノが出てきた!」と語っていた。確かに「緑のツノ」そのものである。



しかししばらくすると、葉が開いてきて、やっとヒヤシンスの芽らしくなってくる。



上から見ると、アロエのような多肉植物に見える。周囲に別の植物の芽も生えているのが面白い。



1年生なので、球根の植え方もいろいろだ。この球根はかなり斜めに植えてあったようだ。しかし、芽はしっかり上に向かって伸びようとしている。



すでに、花のつぼみがかなり大きく育っている鉢もあった。ヒヤシンスを土栽培すると、成長は非常に遅いのだが、花が長く咲き続けること、それに子球(子球根)ができることがある。3月になって暖かい日が続けば、1年生の教室前を、5色のヒヤシンスがたくさん咲いていることだろう。